



美谷 芳昭

### 行財政改革の取り組みは!!

現在、学校再編整備、火葬場建設、消防常備化等大型公共事業に取り組んでいるが、当然大きな財政負担は避けられない。

今後持続可能な行財政運営を継続するため、昨年3月に「行財政改革プログラム」が策定されたが、削減効果をみても実行性に欠けるので、今後の行財政改革の取組について見解を問う。

**問** 今後の財政収支見通しはどうなっているか。  
**答** 財政調整基金は平成33年には残高が無くなり、平成34年に早期健全化基準を、その翌年には財政再生基準を突破する見込みであるが、そうならぬように危機感を持って財政再建に取り組みたい。

**問** 今後も財政負担を強いる総人件費の抑制策はどのようなのか。  
**答** 目下、進行中の行財政改革プログラムや定員適正化計画を着実に進めるとともに、実行性のある組織、機構及び職員配置を行い、総人件費の抑制に努めたい。

**問** 経常経費の削減、事務事業の精査及び業務改善はどう推し進めるのか。  
**答** 今後の人口減少や財政状況をみると、抜本的に業務の見直しを行い、行政需要を把握した上で、行財政改革プログラムにより経常経費の削減、事務事業の精査、業務改善を行いたい。

**問** 平成26年度中に「公の施設等のあり方」について再検討・方向付けをし、順次予算に反映させるとなっているが、どう反映させるのか。  
**答** 今後は重点施設を抽出してそのあり方を検討した上で、施設の存廃、集約等個々具体的に方針を示したい。

**問** 活性化に繋がるまちづくりは今後どのような施策を実施するのか。  
**答** 人材育成や地域社会の担い手育成に加えて、観光振興や地域資源の付加価値など地域の自律的な好循環をめざして施策を実施したい。

**問** 危機管理・災害対策は、4月から部門の立ち上げ、新学校は、開校までに決めるべきことは1年間で確立せねばならない。一つ一つというよりは、もはや一言一言が確定、前進をせねばならない、こういった覚悟を求め、質問をした。



原田 健志

### 一、危機管理・災害対策 二、新学校開校に向けて

**問** 危機管理・災害対策は、4月から部門の立ち上げ、新学校は、開校までに決めるべきことは1年間で確立せねばならない。一つ一つというよりは、もはや一言一言が確定、前進をせねばならない、こういった覚悟を求め、質問をした。

**問** 町における、平日・休日、日中・夜間など災害の緊急情報等を受ける体制はどのようになるのか伺う。  
**答** 風水害等の気象情報には早期に警戒態勢をし、休日や夜間においても担当職員が参集するなど、万全の情報収集態勢に努めたいと考えている。

**問** 災害時において減災、防災の観点においては、初動が重要と考える。情報を速やかに受け、判断し、実対応をなし得る十分な危機管理体制づくりをする必要がある、町の考えを伺う。

**答** 災害対策に向けた体制整備について、災害警戒本部や災害対策本部を早期に立ち上げ、指摘の初動の重要性を認識した体制を構築して対応に当たると認識している。

なお、新体制においても、早期に参集し判断を適切にし、住民の安全・安心のため、今以上に増して進めていきたい。

**問** 危機管理部門は変わらず能勢町が担っていく中で、昨年・一昨年の教訓を活かし、役場ができること、協働で役割分担をお願いすべき事、しっかりと確立し示す必要があるのではないかと。  
**答** 提言を含め、とくに自主防災組織的なものも、アピールは不足しているが、やはりそれぞれの地域で行政の部分を補っていただくところの部分になると思うが、働きかけは今後もさらに進めていきたい。

最後の1年間、事務局はもちろん、学校現場、そして議員、また保護者、地域の皆様方の御理解、御支援もいただきながら最後の仕上げをしてまいりたい。